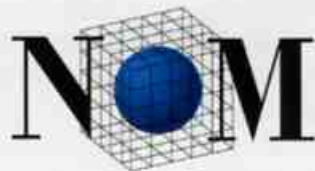


# 雪 椿 通 信



小杉放庵〈春秋屏風〉より春図  
1937年 151.8×166.1cm 紙本彩色 二曲一双屏風

日本美術院で活躍した小杉放庵（1881～1964）は、1930年（昭和5）に妙高の赤倉温泉に別荘を建てた後、そこでの制作を重ねるようになります。本作は春秋の景色を描いた一双屏風の片方で、春の庭にホロホロ鳥が遊ぶさまを写したものです。画家自身が考案した麻紙に墨華の技法を生かして描かれ、木瓜の花の色づきやホロホロ鳥の緻密な柄が典雅な趣をかもし出しています。

鳥・庭石・藤が下方にまとめられ、構図に安定感が与えられる一方、上へ伸びあがる木瓜の枝ぶりは、春の華やいた気分を演出します。この絵の場合、ホロホロ鳥が二羽描きこまれたのにはわけがあります。そのことで空間感が生まれ、金砂子の敷かれた余白が地面であることが鑑賞者に把握されやすくなるのです。

遠くから構図の妙を楽しむだけでなく、屏風の近くに座って春の香気に包まれるのも一興。岩の上にとまる孤高な藤を描いた秋図も、ぜひご覧になってください。

## 県民の美の財産Ⅳ 新収蔵・相澤コレクションを中心に

2006年4月8日(土)～6月4日(日) 会期中一部展示替えがあります

平成18年度の最初の企画展として、前年度に新収蔵となった作品の数々をご覧ください。

前年度の収蔵品は、1,217点と非常に多数となっています。その大半を占めるのが、旧寺泊町にあった相澤美術館のコレクションです。美術ファンなら一度は訪れたことのある、全館樟色(つるばみいろ：黒色の一種)で統一され、日本海に臨み、天候の良い日は、佐渡島が望める個性的な美術館でした。燕市在住の実業家で小説家でもあった館長相沢直人氏の眼で蒐められた難波田龍起・史男親子の作品をはじめとした非常に質の高い作品群が常設され、また、企画展も42回心惹かれる作家たちを取りあげ、開催されました。

しかしながら、相沢氏が高齢であることと、健康上の理由、そして後継者が不在であること等から美術館は、一昨年(平成16年)11月末に閉館し、そのコレクションがどうなるのか、また散逸してしまうのかと心配されていました。そうしたところ、昨年、相沢氏より、県民の皆さんに供したいということから寄贈の申し出をいただきました。早速コレクションの全容を調査させていただき、1,088点の作品が当館の収蔵品となることとなりました。

この新収蔵品展では、相澤コレクションの核であった難波田龍起・史男親子、長崎莫人、江口草玄などの作品から、村山槐多、古賀春江、海老原喜之助、山口長男をはじめとした近現代作家の素描、水彩、油彩など、コレクションの中から

およそ200点の作品(会期中展示替えあり)をご覧ください。また、今後折りにふれて、展示しなかった作品を逐次展示していただきますが、所蔵品展示室3で、この新収蔵品展に併せて4月1日から相澤コレクションの中から北川民次の版画(5月14日まで)、5月16日からは野田哲也の版画(6月25日まで)を展示しますので、併せてご覧ください。

そして、この相澤コレクションの新収蔵に加え、新潟市出身で戦前の洋画界の草分けであった安宅安五郎の油彩、ティツァーノの作品を引用した阪本文男の油彩、鍍金に現代的感覚を取り入れ活躍中の佐渡在住、三代宮田藍堂《五合庵の昼寝》、熊井恭子のファイバーアート、蕪木研爾の写真、そして第7回亀倉雄策賞受賞の勝井三雄のポスターを加えて、平成17年度に収蔵された作品を展示いたします。

どうぞ県民皆さんの財産となった作品たちをご覧ください。

(主任学芸員 松矢国憲)

## ウィーン美術アカデミー名品展—ヨーロッパ絵画の400年

2006年7月15日(土)～9月10日(日)

オーストリアの美術教育を18世紀以来担ってきたウィーン美術アカデミー。現在では美術大学として、芸術家養成機関の中核であり続けると同時に、優れた絵画コレクションを公開する美術館としても国内外に知られています。

今夏の展覧会は、このアカデミーの所蔵品から精選された84点の名画によって構成されています。16世紀初頭のルネサンスに始まり、オランダ・フランドルを中心とするバロックを経て、19世紀後半にいたる西洋絵画の流れをたどるラインナップです。

同アカデミーのコレクションのユニークな点は、その9割が寄贈作品から成っているところにあります。その最重要のものは、1822年にアントン・フランツ・デ・パウラ・ランベルク＝シュプリンツェンシュタイン伯爵から遺贈された740点にのぼる絵画コレクションです。そして本展出品作の多くも、この一人の貴族が築き上げたコレクションに由来するといっても過言ではありません。

ランベルク伯爵は、18世紀後半から19世紀初頭にかけて、ハプスブルク朝オーストリアの首都ウィーンで活躍した著名な収集家であり外交官です。晩年は美術アカデミー理事長を務めたこともあって、自らの死後、コレクションをアカデミーに託したいという意志を抱いたものでしょう。皇帝フランツ1世が伯爵の真意を読み違えて、危うく皇室コレクションに吸収されかけた時に、時の宰相メッテルニヒが守ったと

いう興味深いエピソードも残っています。

ランベルク・コレクションには、幅広い時代と地域の作品が含まれますが、特に17世紀のフランドルやオランダの絵画が図抜けて充実しています。レンブラントの《若い女性の肖像》は、画家26歳の作品です。腕の冴えた描写は目を瞶るものがあり、単なる表層的な肖像の域を超えて、内奥の精神の表現に到達している極めて近代的な作品です。肖像画をキーワードに、各時代の作品を縦断的に見る、あるいは各地域の作品を横断的に見るといった楽しみ方も、この展覧会の醍醐味の一つでしょう。

また、伯爵の慧眼は、同時代の風景画の収集にも光ります。たとえば、グアルディのヴェネツィア都市景観図。18世紀末頃、一般的にはカナレットの端正な描写の方が、グアルディよりも好まれましたが、伯爵は光の繊細な変化をとらえたグアルディを集めています。百年後、風景画に起こった革新を知っている私たちには、その先見性は歴然です。旧ランベルク・コレクション以外にも、「ウィーン美術アカデミー名品展」は見所が豊富です。本展を通して、ヨーロッパの時空間をのびやかに旅していただきたいと思います。

(主任学芸員 平石昌子)



難波田史男（東画）1968年（複製コレクション）



村山潤多（複製）1918年（複製コレクション）



三代高田観堂（結りのない物語「五合庵の巻」）1934年



飯本文男（ヘルマフロディトス-妻による）1967年

■観覧料

	一般	大学・高校生	中・小学生
当日券	410円	200円	100円
団体券	330円	160円	80円

※団体券は20名様以上 ※中・小学生は、土・日・祝日は無料



ヨース・ファン・クレーフェ（聖家画）1515年頃



レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン  
《若い女性の肖像》1632年



フランチェスコ・グアルディ  
《サン・マルコ広場と時計塔》1770年頃

■観覧料

	一般	大学・高校生	中・小学生
当日券	1200円	700円	500円
団体券	1000円	600円	400円
前売券	900円	500円	—

※団体券は20名様以上 ※中・小学生は、土・日・祝日は無料  
※前売券は5月から発売予定

# あしあと

2005年9月～2006年3月

## ケーテ・コルヴィッツ展

—未来の種たちへ—

9/3(土)～10/23(日)



開場式では、長崎少年少女合唱団のみなさんが元気な歌声を響かせてくれました。



震災や戦争様々な体験を伝えていくために設置された「あの朝私は」のコーナーにはたくさんの声が寄せられました。



震災からちょうど一年となった展覧会最終日(10/23)は観覧無料となりました。



《母と二人の子》の像の前で。

## 昭和の美術 1945年まで

〈目的芸術〉の軌跡

11/3(木・祝)～12/11(日)



普段はなかなか見ることのできない作品が並びました。



山本五十六像の前で解説する澤田主任学芸員。

離陸 着陸

## 亀倉雄策のデザイン展

1月28日(土)～3月21日(火・祝)



ニコンカメラ・レンズのパッケージが一堂に。圧巻でした。



電食デザインのオガサカスキーも登場。

# ハンカチアートプロジェクト

現場制作：10/18(火)～10/21(金)

展 示：10/22(土)～10/23(日)

造形作家藤原洋次郎さんと川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科の学生さんたちを中心としたチームが、被災地をハンカチのリレーで結びました。



ハンカチには、兵庫県立舞子高校と新潟県立長岡大手高校、新潟県立小千谷高校の生徒さんたちのメッセージもよせられました。



美術館の壁がハンカチで覆われました。



## ワークショップ



11/6日 「ときめき☆ファッション」  
将来はファッションデザイナー!?  
個性的なスタイルができました。



2/5日 「雪の中の野外彫刻めぐり」  
1mほど積もった雪の上を踏みしめながら  
の探検です。彫刻もいつもとは違った表  
情を見せてくれました。

## 巡回ミュージアム



平成17年度は美之行、五華、三和の3会場で開催。たくさんの方々が名品とふれあ  
いました。写真は道之谷中学校の様子。

## 雪の日の近代美術館

晴れた日にはこんなステキ  
な光景に出会えることもー。



斎藤月岑の『武江年表』によると、宝暦7年(1757)と天保12年(1841)の二回、越後高田善導寺の善導大師像の出開帳が江戸両国の回向院でありました。私たちが高田の善導寺を訪れて、今日まで大切に護持されてきたこの善導大師像に初めて対面がかなったのは昨年7月のことです。顔を少し左に仰向けて合掌し、念仏を唱える姿の像ですが、いかにもやさしい、ほのほのとした表情と、親しみやすい身ぶりのうちに、一心に阿弥陀如来にすがる真摯な心がみごとに表現されています。江戸の出開帳に集まった善男善女も同様の感銘を受けたにちがいません。この三月に新潟県の文化財に指定された機会に、この優作を紹介したいと思います。

善導大師(613-681)は、唐代浄土教の大成者として知られていますが、日本ではことに法然上人(1133-1213)が専修念仏を善導から相承したとして篤く尊崇し、そのため浄土宗寺院では善導大師像を安置することが盛んでした。

この像は像高126.9cm、松材の寄木造り、玉眼嵌入の像で、表面は今全体に黒ずんでいますが、もともと肉身部は肌色に彩色されていました。法衣や袈裟は唐草その他の文様を描いた上に全体に金箔を押ししています。保存がよく、一部を除けば表面の仕上げまで後の手が入っていないのは貴重です。

この像とよく似た像に、国の重要文化財に指定されている京都知恩院の善導大師像があります。さらにこの二体の像は、京都知恩寺の鎌倉時代に描かれた善導大師画像と容貌姿態がよく似ています。知恩寺の画像はその賛に紹興11年(南宋、1161)の紀年があり、おそらく原本となった宋画があったと思われます。善導寺や知恩院の彫像はその原本あるいはその写しをもとに造られたのでしょうか。

作風の上で、善導寺像の写実的な面貌表現や深淺強弱のある衣文の彫り、大らかな耳の鬘の曲線などに運慶派の特色が明かで、その点は知恩院像も同様です。しかしもう少し細かく両像をくらべると、善導寺像の左斜め上を仰ぎ見る形は、ほぼ正面上方を仰ぐ知恩院像にくらべて知恩寺画像に近く、知恩院像が単純なのに善導寺像が二重瞼なのも知恩寺画像と同じです。善導寺像は、根本像である宋本に知恩院像よりも近い位置にある可能性が考えられます。また、知恩院像の方が全体に穏やかにまとめられている感があります。知恩院像は文献の上からおよそ

嘉禄元年(1225)から寛喜元年(1229)までの間の造立と知られますが、以上のことを考えると善導寺像の制作は知恩院像より年代が下るとは思われず、同年代かむしろやや遡る時期の造立と考えたくなります。

寺記によると、善導大師像は室町時代に蓮開上人が奇瑞によって得たといいますが、像はそのできばえからいって京都からもたらされたのでしょうか。

なおこの像は口の中に小孔があり、知恩寺画像では口から出る化仏を描いて「南無阿弥陀仏」を唱えるさまを表しているのを参考にすれば、もとは六波羅蜜寺空也上人像と同様に六体の化仏を針金で連ねて口に挿していたと思われます。

『法然上人行状絵図』に、法然が夢に腰より下は金色で腰より上は墨染の善導大師を見たといい、鎌倉時代末にはこの半金色の善導大師像が流布したようです。善導が阿弥陀如来の化身であり、かりに凡夫の人と生まれたとする法然の考え方にもとづいたものですが、本像で肉身部は彩色で表わし、袈裟などの着衣を聖性の象徴としての金色としたのも、やがてこの半金色像につながる表現といえるでしょう。

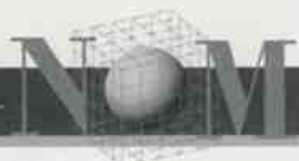


善導大師像



善導大師像(顔部)

【この像についてのお問合せは当美術館学芸課にお願います】



今年度は、平成16年11月28日に閉館した相澤美術館（新潟県旧三島郡寺泊町）のコレクション1,088点をはじめ、新潟にゆかりのある作家や、作家のご遺族から多数の貴重な作品をご寄贈いただきました。

これらの作品の一部は、近代美術館企画展示室において、4月8日からご紹介する予定です。

### 新収蔵作品（抜粋）

作家名	作品タイトル	寄贈者
ジュゼッペ・カボグロッシ	〈QUARZO〉(1970年、リトグラフ ※10点組) ほかに1点	相沢直人氏
ホアン・ミロ	〈太陽の賛歌〉(1975年、リトグラフ ※33点組) ほかに1点	
江口草玄	〈風無門自開〉(1964年、墨) ほかに75点	
長崎莫人	〈カシクラ山〉(1950年代、墨) ほかに201点	
難波田龍起	〈線遊びA〉(1954年、パステル、インク) ほかに73点	
難波田史男	〈夏の川とボート〉(1963年、水彩、インク) ほかに122点	
上記含め 94作家 1,088点		
宮田宏平(三代宮田藍堂)	〈終りのない物語「五合庵の昼寝」〉(1994年、鋳型鋳金)	宮田宏平氏
熊井恭子	〈DRAPE・G〉(1989年、ステンレススティール) ほかに1点	
勝井三雄	〈視覚の地平 visionary ∞ scape〉 (2004年、シルクスクリーン) ほかに4点	亀倉雄策賞事務局
安宅安五郎	〈シャバヌ模写(冬)〉(1921年、油彩) ほかに15点	安宅和子氏
阪本文男	〈酒楽〉(1958年、油彩) ほかに2点	阪本玲子氏
蕪木研爾	〈流氷くオホーツク〉(1979年、モノクロームプリント) ほかに100点	蕪木美智枝氏
渡辺義雄	〈伊勢神宮く内宮正殿正面床下柱と木階〉 (1953年、モノクロームプリント ※1996年にリプリント)	渡辺一雄氏

### 新収蔵作品点数（合計 1,217点）

区分	内訳
世界の美術(64点)	版画50 資料14
日本の美術(1,011点)	油彩画等82 日本画134 版画245 工芸5 水彩画157 素描210 書78 デザイン5 資料95
新潟の美術(142点)	油彩画等9 水彩13 版画1 写真26 資料93

## 研究室より — 美術鑑賞しない展覧会？ ～「昭和の美術」展を終えて

およそ“美術鑑賞”とは、“美しい名品を眼と心で味わう優雅な行為”とでもイメージされているのではないのでしょうか。そういう私も例にもれずそれを好み、結果学芸員の道を歩むことになったのではありますが、でも、本当にそれだけなのでしょうか？

少なくとも「美術」と「鑑賞」にはそれぞれもっと別な側面も備わっているはず。「美術」とは美しいもの、「鑑賞」とは心地よいもの、それは確かに正しいのでしょうか、また事の一面に過ぎないともいえます。この展覧会では、「美術」を美的側面はともかく「目的芸術」という社会機能的側面から眺め直してもらい、「鑑賞」では「賞（めぐる、ほめる）」よりは「鑑（てらし考える、みきわめる）」という側面から作品や資料に接してもらいたいと願いました。残念ながら、現実にはこちらの意図が観覧者にうまく伝わったかどうか疑問と反省が残るところです。と同時に、美術鑑賞という行為が本来持っているはずの多面的な豊か

さについて、これまで美術館自身の多くがしっかりと伝えてこなかったというのも本当のところではないでしょうか。研究成果を展覧会という形に作り上げるとともに、それをいかに伝え、理解してもらおうか。今回は、そうした“基本”の難しさをあらためて教えられた気がします。

(主任学芸員 澤田佳三)



会場風景

# イベント情報

4月～9月

## ●企画展

4/8(土)～6/4(日)

「県民の美の財産Ⅳ 新収蔵・相澤コレクションを中心に」

7/15(土)～9/10(日)

「ウィーン美術アカデミー名品展」

会期中講演会、講座などを予定

## ●所蔵品展示

第1期 4/1(土)～6/25(日)

前期：5/14(日)まで 後期：5/16(火)から

展示室1：花を愛でる（前期、後期で一部展示替え）

展示室2：もののかたち

展示室3：相澤コレクション・北川民次の版画（前期） 高橋秀（巻）1970年  
相澤コレクション・野田哲也（後期）



第2期 8/27(火)～9/10(日)

前期：8/6(日)まで 後期：8/8(火)から

展示室1：東京美術学校に学んだ新潟の作家たち

展示室2：うつろうかたち～静物画の世界

展示室3：対象を見つめる～博物画の魅力

（全室とも前期、後期で一部展示替え）



静物画（赤と緑の静物）  
1928年

## ●県展 長岡展

6/9(土)～6/18(日)

## ●ワークショップ（参加無料）

「びじゅつ☆体験隊」

5/3(水・祝) 自由に作ろう ポール紙が大変身！

8/6(日) ときめき☆ファッション

「発見！びじゅつかん」

7/16(日) お見せします。ウィーン美術アカデミー名品展の裏側

## ●講座（聴講無料／講堂にて／午後2時～(予定)）

連続講座 「美術館の仕事 学芸員の仕事」

5/6(土) 第1回 美を守る～中越大地震からの教訓

5/13(土) 第2回 名作を探せ～美術品収集秘話

5/20(土) 第3回 展示会の舞台裏

美術鑑賞講座

6/17(土) 「17世紀オランダにおける絵画と社会」

（今井主任学芸員）

7/29(土) 「ルーベンスを読み解く」

（平石主任学芸員）

## ●映画鑑賞会（無料／講堂にて）

9/9(土) 上映作品未定

## ○万代島美術館情報

■7人の新潟の洋画家たち 併設：アメリカ現代絵画の愉しみ  
（4月1日～5月7日）

■ベオグラード国立美術館所蔵 フランス近代絵画展「印象派と20世紀の巨匠たち」  
（5月13日～7月16日）

■佐久市立近代美術館所蔵名品展 はばたく日本画 -近代から現代へ-  
（7月22日～9月3日）

The Niigata **Bandaljima** Art Museum  
新潟県立万代島美術館

〒850-0078 新潟市万代島5-1  
（東横メッセ内 万代島ビル5F）  
TEL:025-290-8855 FAX:025-249-7577  
ホームページ www.lalinet.gr.jp/banbi/

## ショップ&レストラン おすすめの一品

ふた付き  
マグカップ  
……1,260円(税込)



ミュージアムショップ 三越  
TEL.0258-28-4411

平日☆日替り  
ランチ  
……720円(税込)

※写真は、ランチに含まれるメニューから数例をご紹介します。



レストラン・喫茶 広告塔  
TEL.0258-29-5001

新潟県立近代美術館だより 広報通信 第26号

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART  
編集・発行 **新潟県立近代美術館**

〒940-2083 新潟県長岡市宮前町字瀬田276-14 TEL.0258-28-4111(内) FAX.0258-28-4115  
http://www.lalinet.gr.jp/kinbi/ e-mail kinbi@coral.pcn.ne.jp

制作・印刷 株式会社 中央印刷（〒940-0041 長岡市学校町1-9-21 TEL.0258-35-3500）

発行日 2006年4月1日

## 利用案内

■開館時間／午前9:00～午後5:00

※観覧券の販売は午後4:30まで

レストラン／午前10:00～午後5:00

※ラストオーダー（食事）午後4:00

（飲物）午後4:30

ミュージアムショップ／午前9:00～午後5:00

■休館日／毎週月曜日

※ただし月曜が祝日の場合は閉館し、翌日休館します。

※8/14(火)、10/23(火)は閉館します。

※9/11(祝)～9/15(金)、3/22(水)～3/26(日)は保守点検のため休館します。

※12/29(土)～1/3(日)は年末年始のため休館します。

■観覧料金

●企画展

企画展によって観覧料が異なります。

なお、企画展の観覧券で、展示室1・2・3にも観覧できます。

●展示室1・2・3

●一般／410円(330円)

●中等教育(後期)・高校・高等専門・大学／200円(160円)

※小学生を提示してください。

●小学・中学・中等教育(前期)／100円(80円)

※( )内は20名以上の団体料金です。

※小・中学生は土・日・祝日の観覧料が無料になります。

※障害者手帳をお持ちの方は無料になります(受付にて手帳をご提示下さい)。